

金融仲介・地方創生高度化推進会議(第4回) 議事要旨

1. 日時：

平成31年4月5日(金) 13時00分～14時00分

2. 場所：

那覇第2地方合同庁舎2号館2階DE会議室

3. 議題：

金融仲介機能の高度化戦略(案)

4. 議事内容：

各参加機関から、議題にかかる取組み状況について、以下のような議論が行われた。

(○：メンバーの発言、●：当局の発言)

- WebカメラなどのICTを活用すれば、たしかに中小企業の生産性向上という観点からも、お客様も便利になると思うので、当行でも何が出来るか検討してみたい。
前回のシンポジウムでも話題になった伴走型本業支援を行って営業キャッシュフローを向上させる取組みについては、当行では今期から業績表彰に営業キャッシュフローの増減の評価項目を導入した。
- 財務情報がリアルタイムに金融機関に届くということは非常に大事だと感じており、一番の信用の創造に繋がると思っている。沖縄県においては、中小企業のクラウド会計の利用がまだまだ進んでいないのが現状なので、これをしっかりと進めることが、担保・保証に過度に依存しないという金融機関の融資姿勢に繋がっていくと思う。
北部地域の推進、それから中部も含めた人口減少の対策をやるべきだと思っている。
- 北部・奄美が自然遺産に登録されれば、間違いなく観光客も動き出す。民宿も含めた空家対策、それから移住人口とか、若者の動きなどが分かるのであれば情報を頂きたいと、直接、市町村に訪問している。
- 重点実施地域については、景況感の状況も踏まえ検討する必要があると思う。キャッシュレスの取組の中で感じていることは、高齢者にとっては、スマホ決済いわゆるQRコードよりも、ICチップいわゆるカード決済の方が馴染みやすいと感じている。高齢化がどんどん進んでいるため、QRコード決済もさることながら、ICチップのキャッシュレス化も推進した方が良いと感じている。
- 今の沖縄の経済状況を俯瞰してみると、これまでにない動きの一つとして、観光客の取り込みによって、従来それほどビジネスとして動かなかったところに様々な開発が始め、息吹が出てきていると思う。離島や過疎地域にビジネスチャンスが出てくる観点も踏まえ、取組みの場所を絞り込む検討をする余地はあると思う。
- 総合事務局で北部12市町村の振興を支援するというプロジェクトチームを立ち上げてヒアリングをやってきたが、それぞれがいろいろな課題を持っていることが分かった。特に聞こえてくるのは「人がいない」ということと「人はいるが住むところがない」と

いうこと。何らかの形で住むところさえ確保できれば、現在、人口減少している地域も何かできると思うし、その辺は民間も含めて一緒に考えていければと思っている。

- 重点実施地域を北部とすることについては、例えば、「北部は沖縄県の主力産業である観光についてもまだまだ伸び代があるし、その地域の企業もまだまだ伸び代がある。そこを重点的に金融機関がサポートすればビジネスチャンスにもなるし、沖縄県全体の均衡ある発展にも資する」というロジックにしてはどうか。
- ICT とかキャッシュレスが最も有効に活用されるのは北部地域とか離島ではないかと考えており、決してビジネスチャンスの乏しいところに金融機関の資源を配分するという意味では無く、むしろ新しい技術が最も有効利用されるのではないかとこのことを念頭においている。
- 今、沖縄の経済状況については数字を見ると高い水準で推移しているが、課題も多くある。北部・離島の問題、それから貧困の問題、これは絶対的に沖縄の所得レベルが、全国に比べてまだまだ低いということも大きな要因になっている。このような社会的な課題をどう解決していくかは我々の課題でもあるが、逆に言えば沖縄の伸び代だとも考えられるので、是非、そういった視点で捉えていただきたい。

以上

お問い合わせ先

沖縄総合事務局財務部金融監督課

電話 098-866-0095